

令和3年度第2回宇治市歴史的風致維持向上協議会会議録<概要>

令和4年2月7日(月)14時00分 ~ 16時00分  
オンライン開催

1. 協議会次第

(1) 開会あいさつ

(2) 報告

① 第2期策定の進捗報告(資料1)

- ・ R3第1回協議会4/26での主な意見
- ・ 2期計画の考え方
- ・ 2期策定のポイント
- ・ 第2期計画策定に向けた3省庁ヒアリングについて

② 第2期策定スケジュールの変更及び第1期計画期間の延長について(資料2)

- ・ 3省庁ヒアリングを受けての市の方針
- ・ 策定スケジュール(予定)

(3) 議事

第2期計画の方向性(実施事業案など)について意見交換

(4) その他

2. 出席委員

森 正美

仲 隆裕

清水 重敦

山口 敬太

吉川 圓良

長谷川 理生也

松尾 史子(京都府文化財保護課長 森 正委員の代理出席)

西村 嘉高

水谷 真(山城北土木事務所長 村田正明委員の代理出席)

脇坂 英昭

伊賀 和彦

久下 伸

### 3. 欠席委員

田原 康男  
辻 四一郎  
多田 重光  
吉水 利明  
五十嵐 司

### 4. 説明のために出席した者

歴史まちづくり推進課	課長	谷口 弘明
	副課長	大谷 由欣代
	拠点整備係長	大島 由光
	文化財保護係長	齋田 雄太
	主任	舛本 真悟
	技師	久世谷 拓真

文化スポーツ課長	久泉 昭人
農林茶業課長	荻野 浩造（代理出席）
観光振興課長	前田 聖子
学校教育課長	吉田 秀平
道路建設課長	丸岡 陽一
雨水対策課長	飯田 克夫
交通政策課長	井上 宜久

### 5. その他の出席者

記者 1名

### 6. 会議概要

(1) 開会あいさつ（久下都市整備部長より）

(2) 報告

第2期策定の進捗報告

事務局より資料1に基づき、「令和3年度第1回協議会においての意見」、「第2期計画の考え方」や「2期計画策定ポイント」、「3省庁ヒアリングについて」の説明を行った。

第2期策定スケジュールの変更及び第1期計画期間の延長について事務局より資料2に基づき、「3省庁ヒアリングを受けての市の方針」及び「策定スケジュール」の確認をした。

(3) 議事

第2期計画の方向性(実施事業案など)について意見交換

副会長：第2期計画策定を延長した分の審議を有効に進める必要がある。

資料3 お茶と宇治のまち歴史公園が開園したので情報発信の充実を図る。

放ち鶺鴒の練習をされているようですが、宇治川の治水を考えるに重要なところでもある史跡部分のプログラムをもっと考えてもらいたい。

第1期計画期間内で失われた伝統的建物がある。宇治には未指定文化財がまだまだあり、調査も段階的に進んでいるが、様々な手法を組合せながら文化的景観構成要素である建造物を活かしてもらいたい。

第2期計画での重点区域の検討をしている天ヶ瀬ダム周辺については、改修工事(国交省)が完成すると来訪者も増える。名勝宇治山についての保存活用計画を進める際に天ヶ瀬ダムをどうするか。天ヶ瀬森林公園の再整備、アクセス、森林管理等、既存のもの質を上げるような相乗効果を期待する。

会長：完成したお茶と宇治のまち交流館「茶づな」と史跡宇治川太閤堤跡をどういう風に具体的に活用していくか。また、歴史的形成建造物の指定を視野にいれ、未指定文化財の保護に力を入れる。名勝宇治山の自然景観をどうするかなど、とても重要。天ヶ瀬ダムかわまちづくりについては、事務局より今ある計画を具体的に補足していただける事柄はあるか。

事務局：天ヶ瀬ダムかわまちづくりについては、国土交通省と連携し法面の安全対策工事を実施していく予定。基盤の整備が必要になっていく。また、広場を造るところの芝の整備について検討中である。

天ヶ瀬ダムかわまちづくりの地域活用については、国交省と検討していたがコロナで一旦止まり、今後どのようにしていくか検討している。

委員：この間の協議会の意見については資料3の所に随分反映されていると思う。お茶と宇治のまち歴史公園及び交流館「茶づな」をいかに活用し、どうソフト事業に活かしていくか。

施設を拠点にしながらもいろんな体験プログラム、施設内部に留まらず外への展開の仕方や観光のニーズが変わっている中で、文化財の建造物を体験場所に活用

していくなどが重要。

フランスのワインツーリズムがありますが、ワインを観光目的とした時に知識だけでなく製造者に着目し歴史を掘り下げていくやり方、歴史文化を体験することが定着してきていると思う。宇治でもイベントで茶農家さんと一緒に何かをする際に、交流館「茶づな」を中心にするのが良い。

萬福寺も隠元さんから掘り下げ、明の時代の茶文化から煎茶文化へと展開した事柄を掘り下げるとか、地域連携した体験プログラムを開発すると良い。人材育成・後継者育成も重要で、宇治に来られる方はかなり歴史に詳しい方が多いと思っているので、ボランティアで無く歴史に詳しいプロのガイドのもと、しっかりとした知識のプログラム、体験、観光もあわせて歴史文化の普及を図っていく。

名勝宇治山については鑑賞上とても価値の高い評価だと思う。鑑賞プログラムの開発をしていくことも大切かと。和歌の文化や平安貴族が見た宇治といったものがSNSと連携し古典のファンを育て、テーマ型コミュニティを作っていくとか。天ヶ瀬ダム周辺のアクティビティがそれぞれ別々にならないようにうまく連携し、現在と古典的なものを重ね合わせた新しい現在の風致作りが重要なテーマになると思う。

未指定の文化財については歴史的な建物、特に町家や古民家の再生活用が重要になってきている。茶業と関係のある土地・建物だけを見ても、中世や近世の時代によって違う。小倉の地域は茶業の点からも非常に重要で、歴史的にも観光的にも宇治全体の中でも歴史的な形成建造物指定や重点区域に進めていくことが大切だ。

会長：体験プログラムをどのように質の高いものにしていくか、本物のクオリティの高いものを提供しなければというところで、体験型プログラムの開発は大切。

それからラウンドオペレーション、知識と文化を体験していただける若い方の育成がまだ十分でなくファンマーケティングの拡大が必要。

情報発信の課題についてはSNSなどのコミュニティ機能を使ってファンをターゲットングして効果を高めていく。

また、小倉地域は文化財指定に相応しいエリアで、重要な地域である。

委員：歴史的風致形成建造物は歴史まちづくり法の中で制定されるもので活用しない訳はない。他の自治体で歴史的風致に取り組んでいるところは結構取り入れている。是非とも活用してほしい。世界遺産の取り組みの中では小倉は魅力的に感じる。小倉の茶問屋さんは世界で活躍されている。世界遺産で玉露発祥の地である小倉が保護されると、宇治茶は更にパワーアップする。

歴史的風致維持向上計画の第1期を終え、第2期の取りまとめをする段階で、色々な事業が横並びになっているが、これらの事業を総合的にやるのが歴まち計画の

良さであり、どう相互作用が働いたかが一番大切なので、どういうところに相互作用があったかを総括したいところです。

歴まち法の運用状況を見ると、ほとんどが観光で、歴史まちづくり観光法じゃないと言いたい。観光に偏るのは制度上やむを得ないが、要は市民生活が向上したのかということを中心にきちんと見たい。

第2期計画では市民生活の向上に寄与できるような政策をどう加えられるか見たい。

会長：まさに歴まち法でできることを早急にやるべき。世界遺産の絡みで他の市町村が候補地を挙げるのに集落単位で上げているのに対し、宇治市は比較的ざっくり「宇治」としか挙げてなく、その細かい仕訳と深堀をしなければならない。

玉露のゴールドドロップをジャパニーズグリーンティのバースプレイスである宇治として押していないと、歴史的価値が消えてしまう。小倉は重要な地域で、宇治の総合計画の中でも、小倉のポテンシャルをいろいろ議論しているので、トータル的に考える必要がある。

第1期の評価で相互作用の部分ですが、お茶のコンテンツを持っているのは文化やまちづくりの相互作用が整理しやすいと思うが、まだバラバラ感がある。

お茶の担い手の話では、他の市民がどう関われるのかを今の方向性の中で議論した方が良くはないかと思うので、ここで、少し地元のご意見を伺いたい。

委員：フランスの場合は日本の木造建築とは建築様式が違う。外国人は古いものを守って行こうとするところがある。日本もかつてはそうだったはずだが、今は古いものを捨てるようになった。

興聖寺の裏山には、江戸時代からずっと朝日山や大吉山、歴史的な建造物もある。捨てるのではなく修理し守って行くのが、歴史的風致には大切ではないか。

委員：コロナで歴史公園のスタートが上手く切れなかったと感じている。この1年で色々なプログラムを充実させてもらいたいと思う。天ヶ瀬ダムのかわまちづくり計画や歴史公園、宇治山も含め宇治川右岸は宇治の誇る歴史景観ですので、保存整備に重点を置き、来られた方々に美しさを感じてもらいたい。

また、観光の観点から回遊性の上がる工夫をしてほしい。

宇治観光として体験プログラムを充実させ、満足して帰ってもらい、再来訪へつなげたいという思いがある。1年の延長期間でいい方向に向かうようによろしく願います。

委員：第2期計画では名勝宇治山の拡大、新たな重点区域のこと等、課題が多くあるの

で、京都府としても関わり、一緒に頑張っていかなければと思う。情報共有をしっかりとしたい。

委員：受け入れ側の体制をもう少し充実させていかなければならないと感じる。外部から来られる人を巻き込み、宇治のまちづくりに発展させていく為には、広域的に情報発信をする必要がある。

委員：道路管理にかかわっている立場では、第1期計画を踏まえ第2期計画が考えられる中で、施策の一つとして道路の使い方が出てくれば、様々な制度を利用し、我々も協力してできると思う。

交通サインを街のブランディングに反映して変更することについては、「以前は『源氏物語の街』としてふるさと創生に取り組んだが、今後は「お茶の世界遺産の街」としていく」、ということをも市民の総論とするのが大切ではある。

委員：天ヶ瀬ダムかわまちづくり計画を積極的に進めていきたい。何ができるかはこれからしっかり考えたい。体験プログラムへ観光要素が移行していくとは思いますが、事業者と一体となり環境整備ができればよいのではと思う。

会長：アイデアを出し、誰にやってもらうかの仕組み作りが大切で、関われる仕組み作りを進める必要がある。

委員：「宇治学」だけにこだわらないが、後継者及び後継者の後継者を育成することが大切で、宇治のまちをより深く知ってもらうことを小中学校でしっかりやっていきたい。お茶と宇治のまち交流館「茶づな」で体験しながら広がってけるとよい。

会長：子供たちは何が楽しいのかアイデアを市民参加型で考える部分があってもよい。コロナで地元の方がたくさん訪れていただける持続性が生まれると良い。

第1期で「宇治学」の副読本を作っていたいただき、人材育成について、きちんと学校教育の中でやっているのは他では中々ないと思うので、その成果をきちんと評価していい。

色んな地域の事を提案してくれたり、手作りのガイドブックを作ってくれたり発信者になる教育指導を沢山されているので、そういうところは評価していくことで更に良くなる。

委員：歴史公園ですが、コロナの関係で中々人に来てもらえてないというところですが、アフターコロナを見据えたお茶と宇治のまち交流館「茶づな」を含めたしっかりと

した情報発信をして皆さんに来ていただく。そして、宇治の魅力を知らせていただき、その魅力を持ったまま街の周遊観光に行くという仕組みをしっかりと構築する必要がある。

天ヶ瀬ダムかわまちづくり計画は今後進んでいくと思いますが、連携をしていくことにより周遊観光がより活発になるのではと思っている。

歴史的風致形成建造物について、宇治ではまだ指定ができていない。今後ある程度ターゲットを絞って、歴史的風致形成建造物になるのか景観重要構成要素になるのかを検討しながら、第2期に示していきたいと思う。

名勝宇治山が文化財指定されましたので、二子山古墳含め、文化財の活用計画をしっかりと作り、保存整備を進めたい。併せて都市公園でもある大吉山の事についても都市整備部として考えていく必要があると思っている。

会長：宇治川右岸が注目されるようになったのは、災害があり防災や環境問題とか、時代がしっかり再認識させてくれているので、これまで積み重ねてきた建造物とかの文化財を点から線にして、保存していく範囲を広げながらやっていかないとけない。

担い手のところで、地域を拡大していくのかといったところでは文化財に関わってきた人達や委員会等の団体とか含めて大切と思うので、後継者育成についての具体性をもう少し第2期計画に盛り込んでいただければと思う。

委員：宇治川の護岸の美観が素晴らしいので保護整備をよろしくお願いします。

#### (4) 閉会

第1期計画の総括をし、第2期計画を進めるということで、今後のスケジュールの確認を行い閉会となった。